

# 学習の主な流れ（例）

自分の力で  
やってみようとする

## 主体的な学び

学びへ  
前のめりになっている

### ▶ つかむ

- 教材や事象との出会いから問いを見つける。
- 気になること、既習とのつながりやズレを見つける。

- ・身近なものや実生活に基づいたもの
- ・提示の仕方の工夫（具体物やICTの活用）
- ・前時までのノートやワークシートの活用



- <例>
- ・鎌倉幕府はなぜ滅んでしまったのか。（小社）
  - ・本当の思いやりって何だろう。（小道）
  - ・ゴリラ、オランウータン、チンパンジーの中でヒトに最も近いのはどれか。（中理）

この場面で指導者は、

- ① **子供の実態（既習事項の定着度、学習への関心など）を確認する**
- ② **単元や本時の学習内容、教材から、学習のねらいを明確にし、まとめ、振り返りにつなげる学習課題を設定する**

ことが大切です。

### ▶ 見通す 予想する

- 学習をどう進めるか（プロセス）のイメージをもつ。
- 学習の到達点（ゴール）のイメージをもつ。

自分で発見して 話し合いから 教師の提示から

**「何を」「どのように」考えるかを  
見通す、予想する**

### ▶ 考える（個）

- 既習事項（知識、技能、考え方など）を想起する。
- 自力解決に向かって熟考する。（設定した時間内で）
- 自分の言葉で語るができるようにする。

#### 📖 考えるための技法

- 順序付ける
- 比較する
- 分類する
- 関連付ける
- 多面的に見る
- 多角的に見る
- 理由付ける
- 見通す
- 具体化する
- 抽象化する
- 構造化する

#### 思考の可視化

これらの場面で指導者は、

- ① **子供の姿を丁寧にみる、丁寧に話を聴く**
- ② **子供の思いや考えを理解する（解釈する）**
- ③ **端的に発問したり、問い直したりして焦点化する**

ことが大切です。

交流の意味を  
理解している

# 対話的な学び

交流のよさを  
実感している

## ▶ 交流する（広げ深める）

- ★他者との交流（聴き合う、語り合う）
- 交流の視点をもつ。「何を」「どのように」「どうするのか」
- 交流を通して、考えをまとめ、広げる。
- 安易にまとめない、強い意見に流されない。

- ・どうしてそう考えたの？（根拠・理由）
- ・どうやって考えたの？（方法）
- ・それってどういうこと？（事実）
- ・考えてみてどう思った？（感性）

他者との協働，他との相互作用を通じて

- ・場の工夫（ペア，グループ，コの字型  
旅学習，ワールドワイドカフェ等）
- ・教材教具の工夫（発表ボード，ICT等）

「つなぐ」  
「つながる」  
「つなげる」

この場面で指導者は、

- ①教師による仕掛けや伏線，立ち位置，出番を意識する
- ②子供の発言を丁寧に聴いて問い返す（揺さぶる）
- ③子供同士をつなぐ，子供と教材をつなぐ（関連付ける）
- ④子供の思考をねらいや教材にもどす



ことが大切です。

## ▶ まとめる

- ★本時のねらいとの整合性
- 話し合ったことをつなげ，構造化する。
- 話し合ったことを文字で整理，再構成する。



学びの広がりや深まりにより  
…「分かった」「できた」「決着した」実感をもつ

- 知識や技能の相互のつながり
- 課題解決の場面や状況のつながり
- 「分かったつもり」にしない手立て

- ・説明させてみる
- ・適用問題を解かせる
- ・メタ認知を促す

この場面で指導者は、

- ①分かりやすい板書，端的な発問をする
- ②本時のねらいとの関係を考えさせる（照合する）
- ③どのように学びをまとめるかを定める（判断する）

ことが大切です。

充実感を  
味わっている

# 深い学び

他や未知の状況で  
活用できる

## ▶ 振り返る

★ノートや振り返りカードの活用

- 学習のプロセスやゴールの内容を振り返る。
- 分かったこと、できるようになったことを確認する。
- どうつながっているか、どう生かせるか考える。
- 自己の変容に気付く。(充実感, 自己有能感)



なるほど。  
そうだったんだ。  
○○したら, △△が

この場面で指導者は,

- ①本時の課題との関連で考えさせる
- ②できるようになったことを取り上げて価値付ける
- ③子供の具体の姿を評価する

・構造化された板書

ことが大切です。

## ▶ 生かす

★身に付けた知識・技能の活用

- 学習したことが大切だ, 役に立ちそうだ実感する。
- 学習したことが活用できそうだと感じる。
- 自分の力が発揮できそうだと感じる。

やってみよう!!

知識・技能を「活用・発  
揮する」ことが重要



この場面で指導者は,

- ①子供の姿を丁寧に見取り, 発言をつなぐ(解釈する)
- ②知識や技能の関連性を意識化する(つなげる)
- ③活用, 発揮できる可能性を価値付ける

ことが大切です。

### 【子供たちの「主体的・対話的で深い学び」の実現のために】

- ①銚田市授業スタイル2ndを自校化する。
- ②スタイルの流れを, 授業のねらいや実態に応じて活用する。
- ③それぞれの活動の「意味」を考え, 授業設計する。
- ④子供たちにどんな力を付けたいか, そのためにはどうすればいいか, を大切にする。



「やればできる」「受け止めてくれる」「自分もなかなかだ」  
と子供たちが実感できる学びを目指して